

京都大学工学部 正員 北原道弘
京都大学工学部 正員 丹羽義次
京都大学工学部 正員 小林昭一

[I] はじめに

弾性体の固有値問題を積分方程式法により解く方法およびこの方法による固有値解析の特徴が明らかにされつあり、ある種の積分方程式を用いた場合の固有値解析の精度(はかなり)よいことがわかっている。単に積分方程式といっても定式化によりさまざまな積分方程式が構成されるわけであって、各種積分方程式による固有値の精度および固有密度、固有モードの精度を統一的に確認しておくことが必要と思われる。本報告では平面弾性問題を例にとり、境界条件として変位、応力、混合条件を考え、定式化として Green, Layer 表示を用いてオービ種、オービ種および混合問題の積分方程式を構成し、面外(out of plane)振動問題について、固有値、固有密度、固有モードの精度を検討し、最後に面内(in plane)振動問題の固有値、固有密度、固有モードの解析例を示す。

[2] 基本解 2 次元定常弾性問題の基本解は次のようになる。 $(k_T = \frac{\pi}{L}, k_L = \frac{\pi}{W})$ (横波、縦波の波数)

面内振動問題 : $\bar{U} = \frac{1}{2\pi} [H_0(k_T t) \bar{u}_1 + H_0(k_L t) \bar{u}_2 + H_0(k_T t) \bar{u}_3 + H_0(k_L t) \bar{u}_4]$ 面外振動問題 : $\bar{U} = \frac{1}{2\pi} H_0(k_T t) \bar{u}_5$

[3] 積分方程式 各種定式化による固有値精度を検討するために、次のような積分方程式を考える。

(A) オービ種(変位)問題 (F.I.)

$$(i) \oint \bar{S} \bar{u} = 0 \quad (F.I.(G), F.E.(G))$$

$$(ii) (\frac{1}{2}\bar{I} - \bar{K}) \bar{u} = 0 \quad (F.I.(G), S.E.(L))$$

$$(iii) (\frac{1}{2}\bar{I} - \bar{K}^*) \bar{u} = 0 \quad (F.I.(L), S.E.(G))$$

(C) オービ種(混合)問題 (M.I.)

$$(i) \left\{ \begin{array}{l} (\bar{S} \bar{u})_{\partial D_t}^{(x)} = 0 \\ (\bar{K}^* \bar{u})_{\partial D_t}^{(x)} = 0 \end{array} \right. \quad x \in \partial D_t \quad \cdots (M.I.(G)) : \partial D_u, \partial D_t \text{ 共に} \\ \left. (\bar{S} \bar{u})_{\partial D_u}^{(x)} - [(\frac{1}{2}\bar{I} + \bar{K}^*) \bar{u}]_{\partial D_t}^{(x)} = 0 \quad x \in \partial D_t \right. \quad \text{変位表示式を用いた場合}$$

$$(ii) \left\{ \begin{array}{l} (\bar{S} \bar{u})_{\partial D_u}^{(x)} = 0 \\ (\bar{K}^* \bar{u})_{\partial D_u}^{(x)} = 0 \end{array} \right. \quad x \in \partial D_u \quad \cdots (M.I.(G)) : \bar{D}_u \text{ は変位, } \bar{D}_t \text{ は} \\ \left. (\bar{K} \bar{u})_{\partial D_u}^{(x)} - (\bar{D}_n \bar{u})_{\partial D_t}^{(x)} = 0 \quad x \in \partial D_t \right. \quad \text{応力表示式を用いた場合}$$

上に示した積分作用素は \bar{S} : 1重層, \bar{K} : 1重層の微分, \bar{K}^* : 2重層, \bar{D}_n : 2重層の微分に対応している。

[4] 各種積分方程式による固有値の精度について Table 1 は面外振動問題について、正方形、オービ種問題の固有値を上に示した3つの積分方程式により求めたものである。各欄のオ1、オ2、オ3列はそれぞれ積分核 \bar{S} 、 \bar{K} 、 \bar{K}^* を持つ積分方程式により求めた固有値(k_T)および相対誤差(e)をペシートで示している。Table 2 は 積分核 \bar{D}_n 、 $-\bar{K}^*$ 、 $-\bar{K}$ を持つ積分方程式により求めた固有値の精度を示している。

Table 3 は長方形、オービ種問題の固有値を Green 積分表示により求めたものであり、各欄のオ1、オ2列はそれぞれ、(C-i), (C-ii) の方法により求めた固有値および相対誤差を示している。これらの結果からわかるように、オービ種問題の \bar{D}_n 積分核による結果を除いては、どの積分方程式を用いても、得られる結果は $1\% \sim 10\%$ の相対誤差内にあることがわかる。Table 4 は - 応用例として直角3角形(斜辺: \bar{U})の斜辺の面外変位を固定したオービ種問題の固有値を(C-i)の方法に

Table 1 Eigenvalues of the first problem (square($u_3=0$), $N=28$, $\Delta k_T=0.1$, 8-point Gauss)

m	n	1	2	3
		4.443	7.025	9.935
1	4.4	4.4 4.4	7.0 7.0 7.0	9.9 9.9 9.9
	0.98	0.98 0.98	0.36 0.36 0.36	0.35 0.35 0.35
			8.886	11.327
2			8.9 8.8 8.9	11.3 11.3 11.3
			0.16 0.97 0.16	0.24 0.24 0.24
		Exact (\bar{k}_T)		13.327
3		S \bar{k}^* K		13.3 13.3 13.3
	e	e e	$e = \bar{k}_T - \bar{k}_T / \bar{k}_T (\%)$	0.22 0.22 0.22

Table 2 Eigenvalues of the second problem (square($t_3=0$), $N=28$, $\Delta k_T=0.1$, 8-point Gauss)

m	n	1	2	3
		3.142	6.283	9.425
0	2.8	3.2 3.2	6.3 6.3 6.3	9.3 9.4 9.5
	10.88	1.85 1.85	0.27 0.27 0.27	1.33 0.27 0.80
		4.443	7.025	9.935
1	4.3	4.5 4.5 4.5	6.7 7.0 7.1	9.9 9.9 10.0
	3.22	1.28 1.28	4.63 0.36 1.07	0.35 0.35 0.65
		Exact (\bar{k}_T)		11.327
2		D _n \bar{k}^* K	8.7 8.9 8.9	11.1 11.3 11.4
	e	e e	$e = \bar{k}_T - \bar{k}_T / \bar{k}_T (\%)$	0.20 0.26 0.64

Table 3 Eigenvalues of the third problem (rectangular(mixed,a/b=2), $N=30$, $\Delta k_T=0.1$, 8-point Gauss)

m	n	1	2	3	4
		6.283	12.566	18.850	25.133
0	6.3 6.2	12.6 12.6	18.9 18.8	25.2 25.1	
	0.27 1.32	0.27 0.27	0.27 0.27	0.27 0.27	0.13 0.13
		7.025	12.953	19.110	25.328
1	7.0 7.0	13.0 12.9	19.1 19.1	25.2 25.3	
	0.36 0.36	0.36 0.41	0.05 0.05	0.51 0.11	
		8.886	14.050	19.869	25.906
2	8.8 8.9	13.9 14.0	19.9 19.8	25.9 25.7	
	0.16 0.16	1.07 0.36	0.16 0.35	0.02 0.80	

Table 4 Eigenvalues of the third problem (triangular(rectex), $N=10$, $\Delta k_T=0.01$, 8-point Gauss)

k_T^2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
k_T^2	3.142	6.283	7.025	9.425	9.935	11.327	12.566	18.850	25.133	35.708
k_T	3.15	6.28	7.04	9.45	9.95	11.34	12.56	18.96	24.04	35.70

より求めた結果を示している。この場合の固有値は1辺の正方形オービー問題の固有値の部分集合(対角線について対称なモードに対応)となっており、この対応を行として示しておいた。

[5] 固有密度、固有モードの精度について Fig.1~3 は Table 5 に示した円形オービー問題の固有密度と固有モードの分布を示す。

Table 5 は、 $\lambda=0.001, \beta=0.0$ の場合の固有値を示す。Table 6 は、 $\lambda=0.001, \beta=0.0$ の場合の節円の半径を示す。Fig.1~3 は、 $N=0, 8, 16$ の場合の固有密度と固有モードの分布を示す。Fig.1 は、 $N=0$ の場合の結果である。Fig.2 は、 $N=8$ の場合の結果である。Fig.3 は、 $N=16$ の場合の結果である。Fig.1~3 は、 x_1, x_2 軸の法線方向に示した実線は t_1 、点線は t_2 (固有密度) の分布を、 x_1, x_2 軸の法線方向に示した実線は u_1^1 、点線は u_2^1 (固有モード) の分布を示している。これより、オービー問題の固有モードは、 x_1 軸引張的、 x_2 軸せん断的、 x_1, x_2 軸圧縮的なモードであることがわかる。

[6] 面内振動問題の固有値、固有密度、固有モード

Fig.4~6 は円形形状、周辺固定条件のもとに本手法により求めた ($N=28, \beta=0.25$) 固有値のうち小さいもののうち 3 個 ($k_1^1=3.39, k_1^2=3.85, k_1^3=5.25$) に対する固有密度および固有モードを示している。円周上の法線方向に示した実線は t_1 、点線は t_2 (固有密度) の分布を、 x_1, x_2 軸の法線方向に示した実線は u_1^1 、点線は u_2^1 (固有モード) の分布を示している。これより、オービー問題の固有モードは、 x_1 軸引張的、 x_2 軸せん断的、 x_1, x_2 軸圧縮的なモードであることがわかる。

[7] おわりに オービー問題の固有値、固有密度、固有モードに対するより詳細な検討は当面報告する。

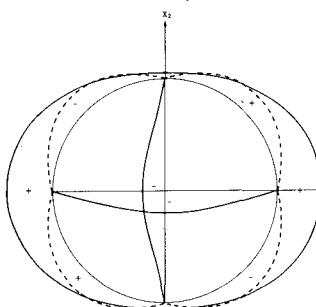


Fig.4 Eigen density and eigen mode ($k_1^1=3.39$)

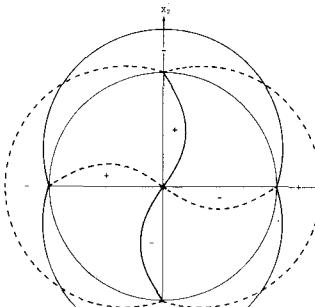


Fig.5 Eigen density and eigen mode ($k_1^2=3.85$)

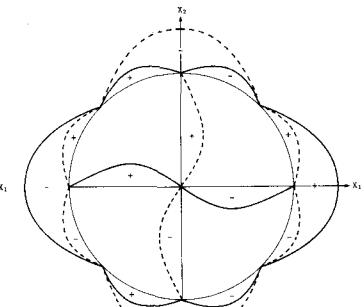


Fig.6 Eigen density and eigen mode ($k_1^3=5.25$)